

テレスコープ技報 (2)

ミヤタテレスコープ技術研究所

2004年8月

我が200mm愛機とテントを車に積んでTさんと1週間「ふらり東北」に出かける。月山、烏海山、象潟の海岸、行く先々で大口径の威力を存分に発揮する。しかし、望遠鏡本体と架台が大きいと車の後部座席とトランクのスペースを占めてしまいコンパクト化が課題となる。

(「ふらり東北」は別紙にて報告)

次期型設計コンセプト

- ・ 本体、架台ともに小型・軽量・組み立て式とする
- ・ 組み立て所要時間は小型テント以下を目標
- ・ 組み立て後の光軸調整は最小限、できれば不要にする
- ・ 分解時は3つのブロックとしコンパクトに収納する
- ・ 次期大口径化(300 or 400mm)のためのモデル機とする

2004年9月 構造検討



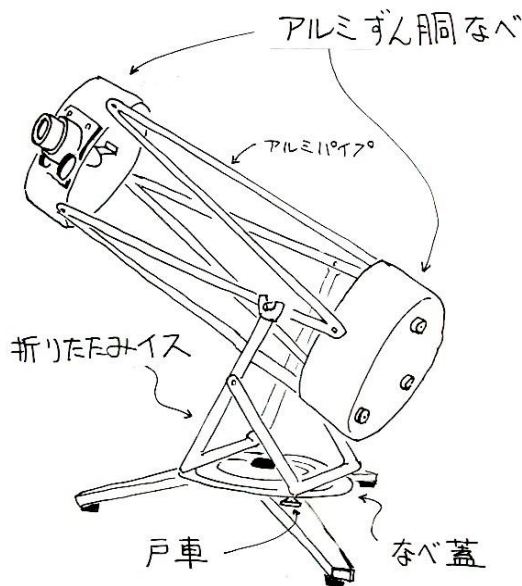
1/8 ダミー (材料はフィルムの缶と焼き鳥の竹串)

ハワイのすばる望遠鏡をモデルに構造検討

1/8のダミーを作成してトップのリング部とボトム間の支柱の本数を最少にする構造を検討する。

- ・ トップのリング部とボトムの接続部は組み立ての精度を上げるため3点で支持
- ・ 本体のねじれ、たわみを最小限にするため6本の支柱でトラス構造をとる

全体構想



24cmのアルミ厚肉ずん胴鍋を購入、細部構造を検討する。鍋は中央で上下に切断し望遠鏡トップのリング部とボトムの主鏡収納部を構成、蓋は架台のターンテーブルに利用することとした。



「アストロなべスコープ！」 観測登山中にビバークとなったら主鏡を外してコップェルとして使用

* 次号は苦難の製作過程です